

平成 10 年度物質工学連合部会 第 10 回デザイン分科会
議事録

期日：平成 10 年 7 月 2 日（木）14：00～7 月 3 日（金）11：50

会場：能登島町生涯学習総合センター（石川県鹿島郡能登島町）

■本会議 7 月 2 日（木） 14：00～17：30

1. 開会

司会 石川県工業試験場 主任研究員 奥野 孝

2. 挨拶

開催県機関長 石川県工業試験場 場長 岩田紘一良

能登島町教育長 浜田 修

分科会長 長野県情報技術試験場 デザイン部長 吉田 健二

3. 議長選出

議長 石川県工業試験場 製品科学部長 近岡和英

4. 議事

(1) 指示連絡事項

デザイン分科会長：吉田氏

- ・ 平成 10 年 6 月 18 日に開催された工業技術連絡会議物質工学連合部会総会の報告
- ・ 中小企業庁からの平成 11 年特別研究承認取り扱いについての変更事項と今後の共同研究課題の提出について

(2) 提案要望事項

北海道立工業試験場：万城目氏

「全国公設試デザイン関連ホームページの共通リンクページの設置に関して各デザイン研究機関のデザイン施策および重点課題を公開する共通ページの設置を提案する。」

長野県情報技術試験場：桃井氏

「万城目氏の提案に加えて、全国公設試のデザイン・CAD 関連設備の検索ページの設置及びデザイン情報交換のための E-mail の活用促進を要望す

る。」

- ・ 上記の提案に対して吉田分科会長から、他の物質工学連合部会の各分科会の共通リンクページの事例が紹介され、これらとのリンクについて提案があった。さらにデザイン担当でホームページを持っている 6 県の公設試を基準にして具体的なネットワーク設置への検討を進めてほしいとの要望があった。

鳥取県産業技術センター：清水氏

「平成 10 年 4 月 1 日から鳥取県工業試験場と食品加工研究所が組織統合して鳥取県産業技術センターとなった。については個人の所属も変わったので報告する。」

デザイン分科会長：吉田氏

「現在の CG・CAD 部会、ネットワーク部会を研究会に昇格してよろしいか。」

- ・ 上記の提案に対して拍手で承認された。

(3) 研究会・部会の報告提案事項

CG・CAD 研究会代表幹事 鳥取県産業技術センター：清水氏

「一昨年から部会が始まり、各機関の CG・CAD 利用の意見交換や長野県情報技術試験場による VRML を用いた新しい情報公開事例など、コンピュータを用いた研究の発表と意見交換をしてきた。今回の分散研究会でも同様な研究発表及び意見交換を行う。また全国公設試デザイン関連ホームページの共通リンクページの設置について、鳥取県産業技術センターで新しくネットワークを作り直すので、デザイン関連ホームページ設置でのサーバ利用が可能である。」

ネットワーク研究会代表幹事 青森県工業試験場：石川氏

「分散研究会では、課題となっている全国公設試デザイン関連ホームページの共通リンクページ設置の検討と、滋賀県工業技術総合センターの野上氏から JAVA についての研究報告を行う。」

地域デザイン振興研究会代表幹事 奈良県工業技術センター：山野氏

「分散研究会では、各機関の業務体系とデザイン振興事業の内容などについて、意見交換する。また次期代表幹事を選出する。」

生産デザイン研究会代表幹事 広島市工業技術センター：谷本氏

「分散研究会では、近年各公設試で多く取り上げられている [人にやさしいものづくり] をテーマに意見交換を行う。」

(4) その他

特になし

■分散研究会 15:05～16:40

●CG・CAD研究会、ネットワーク研究会

1. CG・CAD研究会

議長 鳥取県産業技術センター：清水氏

・長野県情報技術試験場：桃井氏

「補助金に依存しない振興事業の一事例」の発表

「長野県地域印刷産業電子メディア対応推進事業」の指導事例を紹介。公的機関の補助金を用いずに県内の印刷業界13社（若手中心）を対象にデジタル技術を導入した単年度事業についての報告と、成果であるCD-ROMの発表が行われた。また発表のまとめとして、業界の改革意識の喚起や補助金に依存しない体質づくり、さらには自由度が高い研究会の体制作りなどについての報告があった。

これに対して、作成したCD-ROMの開発期間や価格、各企業の負担金や指導回数についての質疑応答が交わされ、また同試験場の吉田氏から長野県印刷業界の歴史と具体的な内状など、事業背景に対する補足説明が行われた。

2. ネットワーク研究会

議長 青森県工業試験場：石川氏

(1) 研究発表

・滋賀県工業技術総合センター：野上氏

JAVAの現状と開発例

JAVAのバージョンとブラウザの関係、JAVAのメリット、アプレットとアプリケーションの違い、JAVAの問題点、JAVAの展望についての報告があり、またJAVAを使用した開発例として「信楽陶器産業における商品開発支援システム」の発表が行われた。

(2) 全国公設試デザイン関連ホームページの共通リンクページの設置に

についての意見交換

・青森県工業試験場：石川氏

「鳥取県にネットワーク用サーバの設置が可能であるとのことだが、準備やホームページのメンテナンスを行うには、鳥取県の担当者と参加各機関のだれ

がどのように運営するのか、体制を決定する必要がある。」

・高知県工業技術センター：仲村氏

「四国地域で共同のホームページを作った時に、各県の製作の進捗状態が違ったので、開設に時間がかかった。全国的に実施する場合は、各地域単位で統括・修正する方式にするのがよいのではないか。」

・滋賀県工業技術総合センター：野上氏

「FTPを通してホームページのデータを収集する方法もあるが、セキュリティ管理のことも踏まえて、CGI（データをホームページ上で直接相互交換するプログラム）で収集するのも、一つの方法である。」

・千葉県工業試験場：岡村氏

「各デザイン機関へホームページ作成を要請する際、参加のメリットがないと、積極的な協力が得られないのではないか。」

(3) まとめ

以下のような検討結果をネットワーク研究会として提案する。

- ・鳥取県でネットワークサーバを設置する。
- ・各地域ごとに構成を統一して、ホームページを作り、鳥取県へホームページの内容を送る。
- ・滋賀県工業技術総合センター野上氏が CGI を作り、鳥取県産業技術センター清水氏に渡す。
- ・各機関内でデザイン担当のホームページが設置できるか確認する。
- ・別案として、産業デザイン振興会のホームページに「共通ホームページ」を載せられないか。

3. CG・CAD 研究会、ネットワーク研究会合同意見交換

全国公設試デザイン関連ホームページの共通リンクページの設置について、ネットワーク研究会から報告があり、以下のような提案について議論された。

- ・鳥取県産業技術センターに全てを任せるのは不可能であるので、各地域ごとに取りまとめる。またセキュリティの面から、データを収集する際には CGI を用いるのが有効ではないか。
- ・産業デザイン振興協会で共通ホームページを設置するように要請する。
- ・全国公設試のデザイン・CAD 関連設備の検索ページを設置する。
- ・各デザイン担当者の成果品の画像データを紹介するページを設置する。
- ・各機関のデザイン担当用にホームページが持てるか確認する。上記の意見

に対して吉田分科会長から「現状で 6 県のホームページが立ち上がっている。各県とも今後開設する機関が自然に増えていくのではないだろうか。またデザイン分科会用に具体的な事務連絡体系を確立してはどうだろうか。」との発言があった。

時間のため、具体的な内容については以後メールで検討していくことになった。

●地域デザイン振興研究会

議長 奈良県工業技術センター：山野氏

(1) 近隣地域の情報交換の現状について

奈良県工業技術センター山野氏から、近畿地区は年に 2 回、集合して情報交換を行っているが、他の地域はどのような情報交換がされているのかという質問に対して、九州地区は熊本県工業技術センター原口さんや佐賀県工業技術センター釜堀さんの呼びかけで、年 1 回行っている。しかし、公務扱いではなく、任意の集まりであり、公設試の在り方、一般行政への対応などの意見交換を行い、概ね好評を得ている。との報告があった。

(2) 各参加機関の地域デザイン振興に関する情報交換

各参加機関の地域デザイン振興に関する活動が任意で報告された。

・奈良県工業技術総合センター：山野氏

奈良県では、奈良県デザイン協会が設立されているが、総合的なデザイン振興の拠点としてのデザインセンター建設の声も高まっている。また本庁、地場産センターも含めて、現在、議論を進めているところである。

・埼玉県工業技術センター北部研究所：竹内氏

・埼玉県工業技術センター南部研究所：辻井氏

埼玉県工業技術センターは、機構改革により、埼玉県工業技術センター（川口市）、埼玉県工業技術センター南部研究所（浦和市）、埼玉県工業技術センター北部研究所（熊谷市）となった。また各部の構成も、従来の、機械、繊維という産業対応型から、電子技術、生産合理化、新素材等、技術対応型に改組した。デザインは独立するだけの力がなく、担当者の職務内容により分散し、今後の研究費獲得も難しい。事業としては秩父地方で、地元商工会とも連携し、繊維関係において、ミニ産学官事業を行い、好評を得た。

・宮崎県工業試験場：鳥田氏

12 月 1 日から、工業技術総合センターとして新築移転する。デザイン専門職は 2 名で、情報企画部門は配属予定。対象は、従来家具・木工であったが、

今後は工業デザインと地域振興への転換が求められており、各機関からの指導を願いたい。

・宮城県工業技術センター：佐藤氏

来年4月、宮城県産業技術総合センターとしてオープン予定。新しい事業の柱として、従来の公設試の枠を越え「市場ニーズに対応した商品開発支援」を推進している。また併せてCG・CAD、造形機器など設備機器の充実も進めており、企業とデザイナーとのコーディネート機能を充実させ、研究、指導、技術移転を効果的に進めたい（サービスの有料化も検討）。

・兵庫県立工業技術センター：真鍋氏

震災で行政も産業界も大変厳しい状況にあり、デザイン部門の退職者補充もままならなかったが今年新人が採用され、安堵している。反面、公設試における効果的な産業振興の在り方が問われており他県の皆様からの師事を願いたい。また企業の開発担当者やデザイナーで「産業交流デザインサロン」を開設し、その成果をいろいろな人に見てもらおうとしているが、こうしたプロデュース機能も公設試の重要な業務と考えている。

・鹿児島県工業技術センター：恵原氏

鹿児島では、「鹿児島県デザイン協議会」が設立され、デザインフェアやシンポジウムなど広く県民各層のデザインマインドの高揚を図るイベントを実施している。

・静岡県デザインセンター：内山氏

静岡県もデザインセンター設立は早かったほうだが、盛り沢山すぎる内容で、限られた予算と限られた職員で効果的な成果をあげることは容易ではない。こうしたことから、企業やデザイナーで構成される

「静岡県デザイン協議会」に、一部、事業を委託し、効果的な事業の運営を図っている。

・群馬県工業試験場：唐澤氏

地域固有の技術支援や、ソフトの振興など、デザインの役割がいろいろと問われている。現在、デザイン専門職は2人。個別指導には限界があり、今後コーディネーター機能の充実を検討している。

・神奈川県産業技術総合研究所工芸技術センター：小堀氏

神奈川県は、公設試の統廃合は数年前に完了している。私が採用されて24年たつが、以後新規採用はない。研究成果の評価基準や評価メンバーの人選が進められている中、10年間の研究テーマの提出が求められている。このことは、デザイン部門の在り方、退職等で人が減ったとき、誰が引き継ぎ、どう対応するかということも検討課題となっているからであり、デザイン部門

の在り方が問われているのではないだろうか。

- ・山形県工業技術センター：羽生田氏

デジタルデザインファクトリーで、4名のスタッフがコンピュータを使った設計支援、画像処理等を行い、機器の開放も行っている。これからは技術指導から、企業支援という姿勢が求められているのではないだろうか。

- ・東京都城東地域中小企業振興センター：薬師寺氏

地域の中小企業やデザイナーの技術のボトムアップを図っている。デジタルに対応できていない企業のデザイン部門でリストラの対象となった人など、対象となる層は広い。

- ・大分県産業科学技術センター日田産業工芸指導所：濱名氏

公設試の研究と地場産業のニーズにギャップがあり、地場産業に対応した業務が求められている。こうしたことから、地場の若手を中心に、様々なデザイン振興事業を行い始めている。

●生産デザイン研究会

議長 広島市工業技術センター：谷本氏

「実際のデザイン開発や生産現場」及び「人にやさしいものづくり」を発表の話題テーマに、各公設試験研究機関の研究及び指導内容、開発事例などが報告、意見交換された。

- ・東京都立産業技術研究所：金谷氏

「人にやさしいものづくり」をテーマとした研究指導事業の取り組みと業務内容について報告が行われた。

- ・大阪府立産業デザイン研究センター：中山氏

高齢化社会、情報化、地域環境、マネジメントの4つの課題に関する研究報告と高齢者に求められるデザインについて、企業20社に対して指導を行った事例報告が行われた。

- ・山口県工業技術センター：上坂氏

「ヒューマンエンジニアリング技術の研究」として、高齢者、身体障害者向けの快適シャワー装置の研究開発指導の発表が行われた。

- ・京都市工業試験場：市川氏

京都工芸研究会の製品開発研究事業として、伝統工芸分野にデジタル技術などを導入した新しい製品開発指導についての報告が行われた。

- ・栃木県工業技術センター：糺谷氏、芝崎氏

大手メーカーに対する中小零細企業の生産現場での問題と、高齢化社会に対応した建具デザイン開発指導事例「玄関用補助ステップ」についての発表が

行われた。

- ・長崎県窯業技術センター：久田氏
デザイン開発に関する業務内容の報告と、「高齢者向け製品の開発」の研究についての報告が行われた。
- ・愛媛県窯業試験場：久米氏
県内産業である砥部焼（陶磁器製造業）と菊間瓦（粘土瓦製造業）についての指導事例の報告が行われた。
- ・秋田県工業技術センター 川連指導所：高橋氏
漆器産地として、地域性の特徴及び組織内容の説明と事業についての報告が行われた。
- ・静岡市商工部地域産業部：頭師氏
平成6年度からの「ゴールデンエイジ生活用品開発研究会」と題した高齢者等向け日用品の開発研究会についての事例報告と事業背景についての発表が行われた。
- ・岐阜県陶磁器試験場：鶴見氏
試験場の組織改革に伴う通常業務の変化と、岐阜県公設研究機関の問題点と課題についての報告が行われた。
- ・三重県工業技術総合研究所 窯業センター：水野氏
県内公設試験研究機関の組織改革に伴う業務体系の変化と、通常業務における課題についての報告が行われた。
- ・高岡市工芸デザイン指導所：日野氏
伝統工芸産地における指導所の業務内容説明と、伝統工芸技術指導についての説明、及び地方外郭団体との協力体制についての報告が行われた。
- ・青森県工業試験場 青森木工分場：成田氏
青森県木工業界の現状と、問題点に対する対応の説明、及び在宅介護機器におけるデザイン開発の研究課題についての報告が行われた。
- ・岐阜県工業技術センター：井戸氏
組織改革に伴うデザイン担当分散についての問題点と、これからのデザイン担当の課題についての提案が行われた。また各産地の後継者不足に相対した各公設試の生産技術者の減少問題についての指摘があった。
- ・広島市工業技術センター：谷本氏
県内産業体系の概要説明及び講習会、研修会などの事業概要と、異業種交流の実状についての報告が行われた。

1. 研究会の報告

(1) CG・CAD 研究会

代表幹事の鳥取県産業技術センター清水氏から、長野県情報技術試験場桃井氏の事例発表についての概略説明が行われた。

(2) ネットワーク研究会

代表幹事の青森県工業試験場石川氏から、全国公設試デザイン関連ホームページの共通リンクページの設置について、研究会での検討事項の報告があり、このことについて引き続いてメールで検討していきたいとの要望があった。

(3) 地域デザイン振興研究会

代表幹事の奈良県工業技術センター山野氏から、参加各機関の業務体系及び今後の課題など、研究会で話し合われたことについてと、代表幹事に神奈川県産業技術総合研究所工芸技術センター小堀氏が選出されたとの報告が行われた。

(4) 生産デザイン研究会

代表幹事の広島市工業技術センター谷本氏から、各地域のデザイン開発や生産現場などの意見交換についての概要報告が行われた。

2. 質疑・応答

吉田分科会長から、メーリングリスト未登録機関の参加要請と、メールの返答についての確認期間を基本的に三日間にするという提案があった。

3. 次回開催県について

秋の第 11 回デザイン分科会について、千葉県工業試験場岡村氏から開催予定について説明があった。

日時：平成 10 年 10 月 27 日（火）10：30～

場所：プラザナノハナ（千葉県庁近辺）

（時刻は変動します。吉田 加筆）

4. その他

(1) 吉田分科会長から、平成 12 年度のデザイン分科会開催ブロックである北関東・甲信越静から開催地選出の要請があった。

(2) 埼玉県工業技術センター北部研究所竹内氏からセンター組織変更の報告が行われた。

(3) 吉田分科会長から、平成 12 年以降の特別研究予算の取り扱いについて、各機関から分科会長に報告願いたいとの要望があった。

5. 閉会

■現地研修会 7月3日(金) 4:00~11:50

1. 大敷網体験 4:00~5:30

宿泊先の梅屋所有の漁船「梅屋丸」等二隻に搭乗、定置網の見学をする。

2. のとじま臨海公園水族館 9:10~10:30

日本海側の魚を中心に海水魚、ウミガメなど約500種50,000点を展示。館内を自由見学した。

3. 石川県能登島ガラス美術館 10:40~11:50

国内唯一の公立ガラス専門美術館。ピカソやシャガールの原案によるユニークなガラス彫刻や中国清朝のガラスなどを展示。またガラス工芸と陶芸の見学・実演所である「たくみの里」を自由見学した。

(現地解散)

以上